

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学研究科
大項目	7 国際交流 (研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況 (院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 交換留学制度、EUIJの制度等を利用した積極的な海外での研究活動に対する支援。	→留学者数、EUIJプログラム参加者数の増加。	B	B			
2. 海外での学会、ワークショップへの参加の支援。	→法人への働きかけを通じた支援制度の実現。	B	C			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いづれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない 大学院博士課程後期課程生には国際学会報告への往復交通費補助が支給されるなど、国際レベルでの研究を促進するような制度が整っている。大学院生に向けてこういった支援制度が利用できることが周知徹底されている。 (説明) 大学院生にとって国際学会報告への動機付けとして国際学会報告者支援策は十分なものであり、こうした制度を利用したいという意識付けが高まりつつある。
★ 小項目 7.0.2	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。 (説明) 大学院生が国際学会報告をする段階にはまだ到達していない。ただし、支援制度を利用したいという意識付けは高まりつつある。
★ その他	博士課程後期課程の大学院生が研究レベルを自ら引き上げ、指導教官らと国際共同研究報告を行うようになれば、単独での国際学会報告者が出て来るであろう。

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学研究科】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	1	1	1	1	1	1		
指標2	国際交流協定締結国数		国	1	1	1	1	1	1		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	-	-	-	-	-	-	累計数	
		外国人留学生	正規	人	15	17	20	28	27	28	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	1	1	0	1	0		・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	34.1	40.5	50.0	49.1	50.9	53.8	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	2.3	2.4	0.0	1.8	0.0		
その他(セミナー等による受け入れ)	人	-	-	-	-	-	-				
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	-	-	-	-	-	-	累計数	
		人数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	人	-	-	-	-	-	-				
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0.0	0.0	0.0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	-	-	-	-	-	-	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

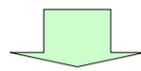
(その他の指標)
協定校と相互交流数(学生・教員)
国別国際交流協定締結先機関数
国別留学生数(学部別)の経年変化

☆追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
☆小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目 7.0.1		
★小項目 7.0.2		
その他		

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目 7.0.1		
★小項目 7.0.2		
その他		

◎自由記述

【点検・評価】《次年度に向けた方策》	
★その他 (自由記述)	海外の大学院との研究交流を促進すべく、本学研究科として教員および院生を交えた組織的レベルで研究プロジェクトを打ち出すのが望ましい。

III. 学内第三者評価

< 評価専門委員会の評価 >

【学外委員】

○海外の大学院との研究交流の努力は引き続き行われることが期待されます。なお、目標2の支援について、BからCに落ちた理由の説明が必要ではないでしょうか。

【学内委員】

○「現状の説明」は国際学会報告者支援策にもかかわらず、院生は（気持ちは無いわけではないが）結局まだ行っていないということをオブラートに包んで表現しているように見えます。しかも院生の海外留学は0であり、院生の海外での国際交流という面では、進捗をあまり評価できません。

○小項目7.0.1では、まず方針そのものを記述して、それに対する説明をしてください。小項目7.0.2では、院生の国際学会報告だけではなく、広く研究科全体としての国際交流の現状について、指標データなども引用しつつ説明してください。

○小項目7.0.1の記述内容は、7.0.2での内容です。

○小項目7.0.2の記述内容は、小項目に十分応えていません。評価指標データを利用するなど、大学院における全般の国際交流について説明されることを希望します。

○海外からの受け入れ人数は一定数ありますが、派遣がないのが気になります。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・小項目7.0.1の説明においては、まず（方針）として、方針そのものを記述してから、現状説明してください。

・小項目7.0.1は方針の明示が内容です。従って、方針があるのかないのか、ある場合は方針の内容を記述してください。

・小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での現状説明とされることが適切です。

・自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のこととわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてもう少し詳しく現状説明されることを希望します。

・現状説明の小項目7.0.1については、（方針）を記述してください。また、現状説明も、その方針に対応する説明としてください。小項目7.0.2については、他の要素も含めた、もう少し詳しい記述をしてください。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

商学研究科独自の予算がほとんどないため、大学全体の国際交流方針に基づいて全学的に制定された大学院生への支援制度を公表、周知し、利用を呼びかけている。

目標2「法人への働きかけを通じた支援制度の実現」の評価がBからCに落ちた理由は、対象期間において大学全体での支援制度の利用者がなく、また、元々少ない商学研究科の予算がさらにカットされたことを反映したものである。学内委員のコメントにもあるように、進捗を評価しなかった結果である。

★改善すべき事項【点検・評価 (2)】その他に追加記述

「目標2について、評価がBからCになっているのは、海外学会やワークショップ報告への補助金制度はあるが、2010年度に商学研究科の学生による利用がないことを反映した。」

改善すべき事項【次年度に向けての方策のその他(2)】その他に追加記述

「現行の海外学会補助金制度の公表、周知を指導教授と学生に徹底したい。」